

気象講演会

入場無料
予約不要

雪と生きる

—山形の大雪、いまとこれから—

「研究の最前線から山形県の大雪災害と
変動する冬の気候を考える」

日時

平成30年 **11**月**5**日(月)

13:30~16:00(開場13:00)

会場

やまぎんホール 地下講堂

(山形県県民会館) 山形市七日町3丁目1番23号

演題・講師

① 山形県の積雪と災害について

講師：**小杉 健二** 氏

国立研究開発法人防災科学技術研究所

雪氷防災研究センター 新庄雪氷環境実験所 雪氷環境実験室長

② 地球温暖化によって日本の雪はどうなるのか？

講師：**川瀬 宏明** 氏

気象庁気象研究所 環境・応用気象研究部 第三研究室 主任研究官

共 催：日本気象学会東北支部・山形地方気象台

後 援：山形河川国道事務所・山形県・山形市

克雪技術研究協議会・日本気象予報士会東北支部

地球ウォッチャーズ-気象友の会-

問い合わせ先：山形地方気象台 ☎ 023-622-0632

URL：https://www.jma-net.go.jp/yamagata/event/kouenkai_2018.html



講演概要

①山形県の積雪と災害について



山形県内の積雪の記録をたどると変動が大きい中で、1980年代後半から1990年代にかけては少雪の傾向が続いたが、2000年を過ぎた頃から大雪の冬がしばしば現れている。

県内の積雪は、雪質の異なる多くの層が積み重なっている事が多く構造が複雑という特徴をもつ。こうした山形県の積雪の量と質についてご紹介した上で、雪による災害の発生状況や事例を紹介し、積雪状況との関わりについて述べる。そして、冬季における災害防止のための今後の課題をまとめる。

講師：小杉 健二 氏

国立研究開発法人防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター
新庄雪氷環境実験所 雪氷環境実験室長

②地球温暖化によって日本の雪はどうなるのか？



産業革命以降、温室効果ガスの増加に伴い、世界の気温は上昇してきている。これにより、世界の降雪や積雪、氷河等は減少しつつある。ただ、日本では近年、雪の多い年もあり、2017/18年冬季は日本海側の一部で記録的な大雪となった。

今後、地球温暖化がさらに進行すると、日本の降雪や積雪、ドカ雪はどのように変化していくのだろうか。本講演では、地球温暖化の基本的な話から最新の雪の将来予測研究まで幅広く紹介したい。

講師：川瀬 宏明 氏

気象庁気象研究所 環境・応用気象研究部 第三研究室 主任研究官